

高校生における地域特性に応じた シビックプライドの醸成要因と定住意識への影響

代表研究者 藪谷祐介（富山大学学術研究部芸術文化学系 講師）

共同研究者 宋俊煥（山口大学大学院創成科学研究科 教授）

[研究報告要旨]

Uターン人口増加の方策の一つとして、高校生において、都市に対する市民の誇りと定義されるシビックプライドを高めることが重要だとされている。これまで筆者らは、歴史文化都市の富山県高岡市や農漁村地域の氷見市に居住する高校生に対し調査を行い、歴史や産業、文化といった各地域を代表する地域特性が、シビックプライドや将来の定住意識に影響を与えることが明らかにした。しかし、これらの2地域と異なるの地域特性を持つ地域においても同様の知見が得られるかは定かではない。本研究は、日本でも屈指の工業都市である山口県宇部市を対象に調査分析を行い、富山県高岡市と富山県氷見市の調査結果との比較し、地域特性によって源泉とシビックプライド、将来の定住意識がどのように異なるかを明らかにすることを目的とした。

属性と将来の定住意識の分析結果より、地域特性に関わらず、3地域すべてで就職を希望する高校生ほどシビックプライドと将来の定住意識が高い傾向が見られた。シビックプライドや将来の定住意識を高めるためには、将来が決まっていな高校生に注力し施策を展開する必要があることが示唆された。すべての地域で「愛着」が将来の定住意識に強い影響を与えることが明らかになり、地域への愛着の醸成が将来の定住意識を高める上で重要な役割を果たしていることが示された。また、地域特性を表す各市の代表的な産業や文化によって、高校生の地域愛着や将来の定住意識が高まることを明らかにした。具体的には、工業都市である宇部市は、石炭記念館や彫刻、UBE株式会社などの代表的な産業や文化、歴史文化都市の高岡市であれば、高岡銅器や鋳物などの伝統産業、農漁村地域の氷見市であれば魚や寒ブリなどの漁業が愛着を高める上で重要である。また、公園や公共交通機関が全地域で「愛着」に影響を与えている。したがって、将来の定住意識やシビックプライドを高める上で公園の整備や、公共交通機関の存続は重要であることが明らかになった。

本研究は、地方自治体や地方教育機関が、若年層のシビックプライドと将来の定住意識を涵養するための施策や教育プログラムを検討・開発する上で有用な知見である。地方都市における若年層のシビックプライドの高まりと地域への将来の定住意識の向上は、人口減少が深刻化する日本において極めて重要な課題であり、本研究の結果はその解決策を提示する一助となることが期待される。今後の研究では、地域特性をさらに詳細に分析し、より効果的な地域活性化策の開発につながることを望まれる。